

市駅まちづくり通信 06

社会実験の総括とこれから / 図書館ワークショップ

第6号 2015.12.22

発行：市駅まちづくり実行会議

編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室

11月4日に、第6回まちづくりワークショップが開催されました。今回は、市駅前通りで9月上旬に実施した「市駅“グリーングリーン”プロジェクト ～市駅前通りを緑と憩いの広場にする社会実験～」の振り返りと、来年度の実施について話し合いました。また、11月下旬から12月中旬にかけて、市駅に移転する新しい市民図書館について話し合う4回にわたる市民ワークショップが、市の主催で行われました。後半ではその模様についてもご紹介します。

9月の社会実験の成果と課題、今後について議論



今回のワークショップでは、9月12日と13日に行われた「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」の総括として、評価・課題と来年度の社会実験に向けた話し合いが行われました。はじめに、社会実験当日の様子や来場者アンケートの結果について、永瀬ゼミ生から報告があり、その結果を受けて、各班が今回の成果と課題について議論しました。今回の参加者は22名（大学関係者を除く）でした。

社会実験の成果として、道路の芝生化や市堀川クルーズが特に好評だった点として挙げられた他、子供からお年寄りまで、地域の交流が生まれたといった声もありました。課題としては、広報活動や会場へのアクセスの改善等が挙げられました。これらを踏まえ、来年度の実施に向けた話し合いが行われ、様々な改善策が示されました。

各班での社会実験の評価・課題

※一部、内容を考慮して整理しなおしています。

	今回の成果	今後の課題
A班	<ul style="list-style-type: none">▶水辺の価値や道の新しい使い方といった新発見があった▶クルーズ船に乗ったついでにぶらくり丁にも足を運んだ▶工作ワークショップの行灯がよかった▶ブックカフェやオープンカフェに可能性を感じた▶地域の協力意識が高まった	<ul style="list-style-type: none">▶定期的開催していくにはどうすればよいか▶芝生エリアの拡大▶イベントに協力してもらえ場所の確保▶参加者数のきちんとした統計をとる▶船に乗れる人数の増大
B班	<ul style="list-style-type: none">▶子どもたちが楽しそうに芝生で遊んでいた▶まちなかでピクニックをしているみたいだった▶片側通行止めにしたが車の混雑もなかった▶商店街・自治会・行政の交流でつながりがうまれた▶市堀川をクルーズするという未知の体験ができた	<ul style="list-style-type: none">▶出店している店の情報がほしかった▶広報活動をしっかりと行う▶悪天候時の対策を練る▶市駅（会場）へのアクセスの改善▶会場全体（出店等を含めた）のマップを用意すべき
C班	<ul style="list-style-type: none">▶地域の活性化につながるイベントだった▶工作教室にはお年寄りも多く参加していた▶車道に芝生があるというのが新鮮だった▶船が新しい取り組みで人気だった	<ul style="list-style-type: none">▶初日と二日目の来場者の差を縮める▶イベント後の芝生の使い方▶さらなる集客を目指す▶周辺のこどもと高齢者にもっと参加してもらう▶駐車場の案内をわかりやすくする
D班	<ul style="list-style-type: none">▶イベント前にみんなで清掃したこと▶住民と学生の協力の場を作れた▶市駅前に家族の遊び場がないことに気付けた▶公共空間の可能性を見出し、まちの再発見ができた▶市堀川のにおいやごみ問題を認識してもらうことができた	<ul style="list-style-type: none">▶市堀川のにおいとゴミ▶話し合いの場が少なかった▶ポスターの情報がわかりにくい▶同時にイベントを行っていた団体との連携不足▶コミュニケーションをとる仕掛けの弱さ

▶裏面：来年度に向けた話し合いに続く

来年度の社会実験に向けて

来年度に向けた話し合いの結果を、「実施エリア」「実施内容」「時期・期間」「運営」の4つの視点から整理しました。

実施エリアについては、歩行者天国の拡大に加え、和歌山城やぶらくり丁のイベントと連携する案も出されました。実施内容については、クルーズ船と芝生エリアを継続しつつ、音楽演奏や子供たちが楽しめるイベントの開催、時期・期間については、平日を含む開催期間の延長に加え、春に実施する案も出されました。運営面では、ボランティアの募集や資金集め、地元の小学生の参加、地域・行政・企業・大学とのより密な協力体制が必要との意見も示されました。

これらの意見を踏まえつつ、来年度の社会実験に向けた具体的な準備を、地域の方々と進めていきたいと思います。

	実施エリア
A班	<ul style="list-style-type: none"> ▶場所を変更せずに規模を拡大する ▶違う区画で実験を行う ▶2車線を利用する ▶芝生を縮小しても続ける ▶市駅夏祭りとの連携
C班	<ul style="list-style-type: none"> ▶歩行者天国を市駅まで広げる ▶市堀川の遊歩道を利用した散歩
D班	<ul style="list-style-type: none"> ▶ぶらくり丁、和歌山城のイベントと連携する ▶違う区画で、範囲を広げて芝生をひく ▶市堀川の散歩道

	時期・期間
A班	<ul style="list-style-type: none"> ▶期間の延長 ▶一週間開催（平日と休日の利用者数を調査 / 経費はどうするか）
B班	<ul style="list-style-type: none"> ▶春と秋のピクニック日和に開催 ▶予備日をつくる ▶市堀川クルーズは社会実験と別に定期的に行ったほうがよい
D班	<ul style="list-style-type: none"> ▶秋（9月～11月） ▶春（5月～6月：桜の見どころ）、ストーリーを持たせる ▶実験期間：3～5年、実現期間：3～5年

	実施内容
A班	<ul style="list-style-type: none"> ▶各店舗の売り上げ調査を行う ▶海外からの観光客をターゲットにする ▶学生たちにもアンケートを行う ▶ブックカフェ+古本市
B班	<ul style="list-style-type: none"> ▶子供も利用でき、気軽に立ち寄れるミニシアターがあればよい ▶和歌山感のあるブースの設置（紀北～紀南） ▶公園ビルのようなものあればよい ▶ワークショップのようなもの（例：ブックカバー作り） ▶美術展
C班	<ul style="list-style-type: none"> ▶多世代交流（子供からお年寄りまで） ▶子供たちが遊べる遊戯スペースをつくる ▶芝生上で紙芝居 ▶音楽：ライブ、太鼓などで盛り上げる ▶AEDの設置、使い方を教える
D班	<ul style="list-style-type: none"> ▶芝生・クルーズは欠かせない ▶船の必要性 ▶今回人気があったところは残す

	運営
A班	<ul style="list-style-type: none"> ▶もっと幅広くボランティアを募り、実行委員会を結成する ▶経費を稼ぐ仕組みづくり
B班	<ul style="list-style-type: none"> ▶組織づくりの必要性、今回の実績をもとに明確化 ▶今後進める上での運営資金はどうするか ▶もっと子育て世代を組織に巻き込み、意見を聞く ▶雨天対策を考える ▶飲食店に協力を求める ▶南海電鉄を通じ、沿線各駅に早い時期にお知らせする
C班	<ul style="list-style-type: none"> ▶ベンチ・休憩場所を増やす ▶地元の子供（小学生）も参加できる方法を考える →その家族も来ることが期待される
D班	<ul style="list-style-type: none"> ▶住民の意見をしっかりと聞く ▶改善点を挙げて変更し、社会実験の完成度を高める ▶街と公共空間の可能性と再認識について声を拾い上げる場の形成 ▶住民間での共有の必要性（最終目的・実験の期間はいつまでか） ▶地域、県、市の行政機関、市民、企業（参画型）、大学（公募） ▶商店街主体（増えすぎるとまとまりづらくなるため上限を決める） ▶地元、大学、県、市が協働で行う ▶テーマ別に運営者を決める（市堀川→大学 / 芝・道路→行政・大学 / 文化・経済→商店街・市民 など）

市民図書館ワークショップ開催！

2020年に生まれ変わる和歌山市駅ビルには、市民図書館が入ることが予定されています。新たな市民図書館の基本計画の策定に向け、和歌山市の主催により、市民ワークショップが開催されました。

11月17日の和歌山大学附属図書館長・渡部幹雄先生の講演会を皮切りに、「まちとつながる図書館」をテーマにした計4回のワークショップ（11/21、11/28、12/6、12/12）が行われ、市駅まちづくり実行会議からも数名が参加しました。新しい図書館を地域の拠点として活かすため、まち歩きも交



えながら、さまざまな可能性を検討しました。今後も新しい図書館に向けた市民の議論が活発化することが期待されます。

◀第3回のグループ発表の様子

お知らせ 第2回市駅前通り再生検討会

●日時：2016年1月16日（土）19時～ ●場所：城北連絡所

市は、市駅再開発に合わせて、市駅前通り（市道・和歌山市駅前線）を再整備する方針を示しています。市駅まちづくり実行会議では、これまでのワークショップや社会実験も踏まえ、市駅前の骨格となる新たな街路づくりの検討会（第1回）を12月17日に実施しました。ご関心のある方は第2回の検討会にぜひご参加ください。

※第7回市駅まちづくりワークショップについては、2月上旬に開催する予定です。日時が確定次第、あらためてお知らせします。

編集後記 駅前の未来を開く街づくり

学生に混じり吾も参加する

この短歌は、市駅前にお住まいの上原ハツさんが、今回の社会実験をテーマに詠まれた歌の一つです。地域の方々が一丸となって取り組もうとする意気込みを感じました。より多くの地域の人たちが積極的にまちづくりに加わるきっかけとして、社会実験が活かされることを願っています。

✎ 永瀬ゼミ2回生 妹育博史